

平成州紙



おりおりの記

## 初めての海外一人旅

一般社団法人 投資信託協会  
会長

岩崎 俊博

1979年、私が大学3年の春休みに英国で英語学校に通うことになり、初めて一人で海外に行った時の話です。航空券を買う段になり低廉な南回りで行くことにしました。

今思えば、初めての海外一人旅なのでから情報を収集するのは重要であったはずですが、横着にも何もせずに出発した無計画旅行でした。当然驚き、失敗、珍道中の連続となりました。

テヘランでの3回目のトランジットの時、飛行機は空港上空の旋回を続けます。漸く着陸してもドアが開かない。おかしいなと思ううち、いきなりドアが開き、ターバンを巻いたライフル銃を持った人達が6~7人飛び込んできました。何が起こったか理解できません。すると彼らは何か叫んだ後、順番にパスポートチェックを始めました。これは何事だ、ハイジャックかといろいろと想像をしますが、訳が分かりません。

いよいよ自分の番になり、パスポートを見せながら“I'm Japanese.”と言ったことしか覚えていません。初めて本物のライフル銃を間近に見せられ、詰問される。恐怖心はピークに達していきます。チェックが次の列に移った時、頭の中は真っ白でした。

随分と長い時間だったような気がしましたが、本当はどれくらいだったかは分かりません。彼らが機外に出てテヘランを離陸した時、機内では自然に拍手が湧いたのを覚えています。

ロンドンに着き、漸く「イラン革命」が起こっ

ていたと知りました。亡命先から帰国したホメイニ師が政権を把握した直後のタイミングで我々はテヘランに到着したため、外国機は全てチェックして

いたとか、軍隊は民兵のような服装だったことなどは今でこそ理解できますが、あの時は全く状況が分からずに只々恐怖に怯えていただけでした。

但し、悪いことだけでもありませんでした。以来何か始める時には多少準備をしようという気持ちになるのはあの経験のおかげです。加えて、中東の大きな政治の変動に直接触れたことは、それらの国々や民族の歴史を学び、宗教やパワーポリティクスなどを含めた複雑な現実を理解したいと考えるきっかけになったと思います。

イラン革命後38年の間、中東では主な出来事だけでも1980年イラン・イラク戦争、1990年湾岸戦争、2003年イラク戦争、2011年エジプト革命・シリア内戦と体制変化や紛争は続いており、今ISやクルド人難民など世界により大きな影響を与え、更に複雑化しているように見えます。

1979年の2月は私にとって鮮烈な記憶と貴重な経験になっています。

